

3 女性の心と排尿を支える

- FLUTS と GSM における漢方治療の可能性 -

二宮レディースクリニック

二宮 典子

女性の排尿障害 (FLUTS) および Genitourinary Syndrome of Menopause (GSM) は、日常診療でしばしば遭遇する症状です。これらは一見、膀胱や尿道といった局所の問題と捉えられがちですが、実際には全身状態や心の状態と密接に関連しています。この考え方は、漢方医学の古典『金匱要略』にも「上焦不通則諸竅不通 (上焦が通じないと諸竅も通じない)」として記されており、現代医学における心身相関の概念とも一致します。

たとえば、同じ頻尿や尿失禁の症状でも、その背景には様々な要因が潜んでいます。日々の診療では、「先生、最近よくトイレに行くんです。仕事が忙しくてゆっくり休めてないんですけど、それも関係ありますか?」「夜も何回もトイレに行くし、疲れが取れへんです」といった訴えをよく耳にします。また、閉経後の方からは「毎日しんどくて、トイレのことも気になるし、眠られへんし、どうしたらよいですか」といった複合的な症状の相談を受けることも少なくありません。これは『傷寒論』に記される「心腎不交」の病態と類似しており、現代の心身医学的アプローチの重要性を示唆しています。当院での診療では、まず患者さんの生活リズムや、仕事・家庭環境などについて丁寧に話を伺うことから始めます。生活習慣の乱れが、症状に大きく影響していることがよくあります。また、排尿に関する症状だけでなく、冷えや疲れやすさ、食欲不振、不眠、排尿習慣や入浴習慣といった全身症状や生活環境にも注目します。この診察方法は、漢方医学の四診 (望診・聞診・問診・切診) の考え方に基づいています。

このような多面的な観察と評価に基づき、必要に応じて漢方治療を取り入れています。近年のシステマティックレビューでも、下部尿路症状に対する漢方治療の有効性が報告されており (Yakugaku Zasshi, 2023)、その作用機序についても徐々に解明が進んでいます。

本講演では、当院での治療経験を基に、患者さんの話に耳を傾け、生活背景を理解することの重要性と、それに基づく漢方治療の実践について報告します。特に、どのような場合に漢方治療が有効なのか、また、どのような点に注目して処方を選択するのかについて、実際の症例を交えながら解説します。これらの知見が、明日からの診療のヒントとなれば幸いです。